

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100505		
法人名	社会福祉法人 共生会		
事業所名	共生家 みずほの グループホーム		
所在地	宇都宮市瑞穂2-14-10		
自己評価作成日	平成30年1月22日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成30年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型事業として地域住民の福祉相談の場として、様々なご利用者様からのニーズに応えられるグループホームです。ご利用者様一人一人の人格・気持ち・人生を尊重し、どのようなことがあっても決して人格を否定しません。常に愛情と笑顔を絶やさずにご利用者様や家族様と接していきます。ご利用者様や地域住民を含め安心して暮らせる福祉社会を目指していきます。地域福祉の向上に努め、関わる全ての方々との信頼関係に務め、地域で愛される施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、ショッピングモールや高速ICにも近く利便性に富んだ閑静な住宅地の一角に位置している。職員は、利用者が家庭の延長として安心して過ごせるよう心を配り、一人ひとりと向き合うことを心掛けて日々の支援にあたっている。普段は感情表現や表情が乏しい方でも、笑顔が見られたり表情が和らいだり小さな変化も見逃さず、利用者の喜ぶ反応が見られた出来事を「ニヤリハット」ノートに記録し職員間で情報共有し、より良い支援に繋げている。職員間で相手の良い取り組みや支援への気付き、お互いへの感謝を伝え合う「サンクスカード」を採用し、職員のモチベーションアップに繋げている。制服にはアロハシャツとシンプルで落ち着いた色合いの長袖Tシャツを採用し、元気のよい明るさと暖かみのある優しさを感じさせ、法人の理念や基本方針にもある「いつも温かい愛情と笑顔」を体現している。毎週水曜日に映画の日を設け、好きな映画鑑賞ができるよう4施設合同で4作品上映を行っている。生活の場であることを大切に、特別な行事にとどまらず、散歩に出かけ公園でジュースを飲んだり、食後の珈琲を飲みに出かけたりと、日常的な外出支援に尽力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共生会の理念である「尊厳・愛情・信頼・安心」を基本に地域密着型サービスの基本である住み慣れた地域での生活を出来るようにする視点から、共生会の理念の一つにある共に生き、共に育み安心して暮らせる社会福祉を目指し、関わる全ての方々と信頼関係の構築に努めている。	法人の理念や指針をまとめたガイドブックとルールブックを職員に配布し、定期的に振り返りを行い話し合っている。職員は家庭の延長として安心して過ごせるよう、一人ひとりと向き合うことを心掛けて支援にあたっており、理念を実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H28年5月の開設より、年に数回の地域住民や他事業所との交流が図れるように、お祭りや催し物、勉強会の開催を企画している。	自治会に加入し、文化祭や夏祭り、敬老会などの地域行事に参加している。事業所の秋祭りには地域の方を招き見学や相談なども行っている。近隣の散歩や買い物に出た際には地域の方と挨拶を交わしたり世間話をしたりと日常的な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事、勉強会、地域ケア会議に参加し、事業所のピーアールに努めている。気軽に相談しやすい雰囲気作りに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度のペースで開催している。事業所の取り組みやサービス状況を報告して、出た意見やアドバイスをサービス向上に生かしていく。	地域包括支援センター職員・民生委員・職員が参加し、偶数月4週目の月曜日に開催している。利用状況、事故報告、行事や研修などの近況報告をしている。地域の初詣先など情報をもらい行事に取り入れるなど、サービス向上に活かしている。	固定メンバー以外に、消防や家族の参加を得られるよう、消防訓練や家族参加の行事日に合わせて運営推進会議を開催するなど、より多くの意見を取り入れられるような工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じて、地域包括支援センターとの意見交換を行い、協力関係を築いている。	運営推進会議を通じた地域包括支援センターとの連携のほか、顔見知りの市職員もおり、訪庁の際や電話での相談がしやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを通じて、正しい理解を深めている。職員は、常に介助方法の話し合いを持ちながら、身体拘束を行わないケアを徹底している。	内部研修により、身体拘束についての理解、職員の意識向上に努めている。気になることはその都度確認や相談をしている。落ち着かない様子が見られる場合には側に寄り添い傾聴するなど、思いや行動の理解に努めている。隣接する小規模多機能と自由に行き来でき、安全面に配慮しつつ、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアにおいて、虐待に関する事例等の話と説明を行いながら虐待のない介護に努めている。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や図書等を通じて権利擁護に関する制度の理解に努め、必要性のある利用者様については地域包括支援センターや社会福祉協議会と連携をとりながら、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に、不明点が残らないように十分な説明や話し合いを行い、理解、納得して頂ける様に心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や提案・要望があれば管理者に報告し、運営に反映されている。また、運営推進会議でも報告するよう心掛けている。	面会時には利用者の近況を伝え、気づいたことや気になることはないか尋ねている。食事や生活に関する意見が多く、外出や運動の時間、食事量など、意見を取り入れ反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催し、意見や提案を伸べられる機会を設けている。また、個人面談にも適宜対応しており、話し合いをしながら運営に反映されている。	会議では話しやすい雰囲気作りに努めている。多くの意見や提案があり、出された提案は積極的に取り入れ運営に活かしている。個別面談では人間関係や働き方についての相談など親身に対応し意向に添えるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明確な職位表を開示し、目標を持って働ける環境を整備している。社内交流行事も積極的に企画し、補助等も行っている。誕生日日にはプレゼントを用意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議と併せてOJTを実施するようにしている。OFF-JTにも積極的に参加を促しており、新卒、未経験の職員でも安心して働けるように就業マニュアルを用意している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の交流行事・施設見学等に参加を行い、閉鎖的な施設やマンネリ化とならない様に他事業所の取り組みを学ばせてもらったり、常に前向きなモチベーションを得られるよう配慮している。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前相談、契約時、アセスメント、サービス担当者会議などを通して本人・家族の困っている事、不安や要望を可能な限り聞かせて頂きサービス提供を行う上でよい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前相談、契約時、アセスメント、サービス担当者会議などを通して本人・家族の困っている事、不安や要望を可能な限り聞かせて頂き、サービス提供を行う上で良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学やアセスメントを通して、ご家族様やご利用者様の要望や意向を把握し、把握したうえで必要とされているサービスの提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の身体状況や一人一人の力に応じた作業や家事を一緒に行いながら、共に暮らす「家族」というイメージを持って接するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけで関わるのではなく、家族にもできる限り関わって頂けるように協力して頂き、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中々、左記のような外出支援は出来ていないのが現状だが出来るだけ馴染の場所や人とのつながりを継続できるように、家族や本人からの情報・希望を聞きながら、出来る限り出向いていけるように支援に努めている。	年末年始やお盆など、家族と自宅や墓参りに出かけている。個々の希望に合わせ、家族の協力を得ながら、美容室や歯科など通い慣れた場所への外出を支援している。友人など馴染みの方の来訪もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置や職員が会話の橋渡し等を行いながら、馴染の関係や信頼関係が持てるように配慮している。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した際は、思い出の写真を集めたアルバムをご家族様にお渡ししている。退去後もご利用者様や家族様が気軽に立ち寄れる環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長い月日の中でご利用者様とご家族様が交わした会話やホーム内での日常会話の中で、ご利用者様の意向把握に努めている。	職員は自分の家族のような思いで接し、一人ひとりに向き合い関わりを多くもつことで、意向や思いの把握に努めている。困難な場合も、お国言葉での声かけや以前の趣味と繋がるような活動を取り入れながら、思いを引き出せるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様の面会時に聞き取り等の把握に努めている。又、他施設の職員から利用時の様子を聞き取っている。知人や友人が来訪された時なども会話の中から把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態や有する能力等、アセスメントや日々のケアを通して把握し、反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の細かい点はその都度話し合い、統一したケアが行えるよう努めている。ご利用者様やご家族様から意見を反映した介護計画の作成している。	一人ひとりの状態に合わせて、3～6ヵ月毎を基本に作成し、状態変化があれば担当者会議を行いその都度見直している。主治医の意見書、家族意見、会議や日常のケアの中であげられた職員意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや個別記録の記入を行い、全職員が記録に関わり、情報を共有しケアや計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じて併設されている小規模多機能の行事に参加して頂いたり、臨時の受診や買い物への同行などが出来る限り要望を叶えることが出来るように努めている。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用してボランティアを招いたり、地域包括支援センターからの情報の収集をしたり、地域の催しものに参加したりと楽しみがある生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視してほとんどの方が、提携医療機関による受診を受けている。状態の変化時には主治医と家族への速やかに連絡し、対応をしている。	月2回の訪問診療のある提携医の受診を希望、利用する利用者が多い。その他の医療機関の受診は家族対応としているが、必要に応じ病院との連絡、連携をとりながら利用前からのかかりつけ医を継続受診できるようサポートしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノート等にて日々の心身の状態や情報、気づきを共有を行っている。看護師が不在の時は、併設されている小規模多機能の看護師にご利用者様の状態を診て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会、退院時のカンファレンス等で情報収集に努めている。また、主治医とMSWとの面談、電話での連携を十分に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでは家であるということを基本にご利用者様、ご家族様の自己決定を重要視した看取りの支援をさせて頂く様に努めている。重度化に伴う意思確認書(同意書)については、家族への説明を行っている。	医療的なケアが必要な場合を除いて、看取りを行う方向で考えており、事業所としての指針を整備している。重度化した場合にも本人と家族の希望に添った支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応は、職員へ細かく周知しており、内部研修等においても、応急措置や初期対応など、学ぶ機会を設けて実践力を身につけるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、日中、夜間を想定した避難訓練を行い、利用者様の安全な避難方法を確認したり、災害時の協力は自治会、消防団にお願いしている。	年2回、日中夜間想定で独自の避難訓練を行っている。防災機器取扱業者指導のもと通報や消火器の使い方などを確認している。自治会や隣接する同法人施設との協力関係を築いている。備蓄は隣接する法人施設内で一括管理している。	消防署の協力を得て、立ち合いのもと避難訓練を行い、現状に即した避難方法等について専門家からの助言をもらうなど、より安全安心に繋がる今後の取り組みに期待したい。

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の力に応じ、声掛け対応を行っているが、基本的にはプライバシーを損ねるような対応はしないように対応している。	個々に合わせた言葉かけや視線をそろえて話しかけるなど、本人の尊厳やプライドに配慮した支援に努めている。トイレへの誘導や失禁時にも、耳元での声かけや、直接的な表現ではなく自然な動作の流れの中で移動を促すなど、周囲に気づかれないような配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定に結び付けている。表せないご利用者様には、プライバシーを損なえるような対応にならないようにしている。お洋服を選べる利用者様には、その日のお洋服も選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールをこなすのではなく、その日、その時のご利用者様の状況に合わせて、変更、方向転換をして出来る限りの訴えや要望を最優先することを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ、おしゃれが出来るように、個人を尊重できるような支援を行っている。希望のある利用者様には職員が見守りながら、お化粧品も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食ともに給食方式ではあるが、栄養士と相談して嗜好調査を行いながらメニューに反映している。その人の力に応じて出来ることをして頂き、職員と一緒に準備や片づけを行っている。	利用者の残存機能を活かし盛りつけや片づけと一緒にしている。誕生月には個々の嗜好に合わせてパケツプリンやゼリー、ケーキなどを作って祝うほか、季節毎の行事食や外食、弁当を持参し近隣の公園での昼食や週1回のおやつ作りなど、食を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員一緒に食事甲開始ではなく、介助に時間を要する重度の方には食事時間を繰り下げようにしたりと、ご利用者様のタイミングを考えながら提供している。状態に合わせて形態を変えつつも、個人購入にて好きな食べ物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台まで誘導し、その方の口腔状態に応じた支援を行っている。可能な限り座席で済まされるのではなく、洗面台でお連れすることで生活のメリハリが確保できるように努めている。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が行えるように支援をし、ご利用者様それぞれの排泄間隔を把握し、声掛けと誘導を行っている。	排泄記録によりパターンを把握している。排泄間隔や行動・仕草などのほか、声かけや誘導の効果的なタイミングについて職員間で情報共有し、トイレでの排泄ができるよう工夫し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の便秘の原因や及ぼす影響を理解しながらも、毎日の体操を取り入れ、身体を動かして頂くと共に、一日1000cc目安とした水分摂取を促している。希望のある利用者様には、個人購入し、ヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様それぞれの希望に合わせて実施している。体調が優れない時や、拒否がある際は、時間や日にちを調整して実施している。楽しんで入浴できるよう、入浴剤の使用も行っている。	週2～3回、1対1の支援を基本としている。希望に合わせて4回入る方や、身体状況に合わせて2名体制で支援する場合もある。隣接の小規模多機能にはリフト浴も備えている。浴室入り口暖簾の工夫や、季節湯や好みの色や香りの入浴剤を用いるなど、入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の個室や共有スペース・マッサージチェアで自由に過ごして頂きながら、夜間は居室の室温や家具、入眠状態の確認を行いながら、安心して静養を行えるように支援している。自宅で使用していた枕なども使用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士連携を図りながら、処方されている薬について十分理解するよう努めている。症状の変化については、ご家族様や主治医と相談しながら服薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段から昔懐かしい曲、音楽を耳からの刺激を受け、口ずさむような楽しく、落ち着ける環境を作っている。その人がこれまでの生活や力に応じた役割を持って頂き、なるべく個々の希望に沿った気分転換に対応している。毎週水曜日を映画の日とし、お好きな映画を観て頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り、ご利用者様のご希望に合わせてながら、生活歴や趣味嗜好にそった外出や外食などの支援に努めている。天気の良い日には、施設周辺の散歩を行い、身体に負担のかからない様にしている。	皆で地域の寺に初詣に出かけたり、近隣の寿司屋での外食、スーパーマーケットやドラッグストアへの買い物、公園への散歩、喫茶店へ食後の珈琲を飲みに行くなど、希望に合わせて日頃から外出の機会を多く設けている。	

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様や家族様の意見を尊重しながら、お財布を所持してもらっている方もいる。管理が難しく、紛失の可能性のある方については、ご説明したうえで、金庫にお預かりをしておき、支出報告書を家族様にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご利用を希望される方については、いつでも使用して頂ける様支援を行っている。また、ユニットごとで、毎月の様子を写真つきのお手紙を家族様宛に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも快適に過ごして頂ける様環境整備を行い、清潔を心掛けている。室温、湿度にも配慮しながら、マッサージチェアを設置し、不快感の減少にここを掛け、自宅で過ごして頂ける様な空間作りを行っている。各ユニットにDVDレコーダーを設置し、いつでもお好きな番組を観られるようにしている。	お雛様など季節に応じた装飾品や、行事の写真や作品を飾り、季節を感じられる工夫をしている。トイレは淡いピンクを基調とした壁紙で暖かみのある落ち着いた空間になっている。回廊式の廊下にはマッサージチェアやソファなどを配置し、各々好みの場所でくつろげるよう配慮している。加湿器などにより、快適な空調管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	身体的な事も含め、なるべくその人の居心地の良い場所になれるように、日々工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用してきたなじみのある家具、または思い出の写真、仏壇を飾って頂き、ご自宅にいる時と少しでも近い環境作りに努めている。	ベッド・エアコン・クローゼット・洗面台などが備え付けられているが、床に布団を敷くなど、希望に添った環境作りに努めている。寝具や机・椅子・本棚・こたつ・筆筒・仏壇・テレビなど、使い慣れた馴染みの品を自由に持ち込み、各々個性ある居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ることを理解しながら、安全な環境作り、出来ることは行って頂けるように、見守りのある環境の中で、日々の生活が送れるように支援している。		